

としょかんだより

庄内町立図書館

2022年 12月発行

No.30

開館時間

平日 9時～18時

土日 9時～17時

休館日(本館)

月曜・祝日(平日のみ)

年末年始・蔵書点検期間



注目の新刊



『思い出リバイバル』

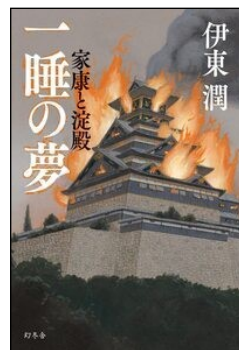
彩坂 美月 / 著



思い出をひとつだけ「再上映」してくれる不思議な存在、映人。幸せなものでも、苦しいものでも、自分にとって価値があって大切なものだと心から思えたら、きっと「これから」が変わっていく。(講談社)

『一睡の夢 家康と淀殿』

伊東 潤 / 著



先に尽きるのは家康の寿命か、豊臣家の命脈か。父であるが故の、母であるが故の苦悩と喜び。親が子に寄せる想いが時代を動かす。まったく新しい「家康像」を描き出した超本格歴史小説！(幻冬舎)

『カラスは言った』

渡辺 優 / 著



「横山さん、第一森林線が突破されました。至急連絡をください」世の中から距離を取っていた僕と、事件の渦中にあるカラス。追われるまま向かった先には、刺激的で危険でも、ちょっと楽しい世界が広がっていた。(中央公論新社)

『どうする家康1』

古沢 良太 / 作, 木俣 冬 / ノベライズ
小国・三河の岡崎城主・松平広忠の子として生まれた松平元康は戦乱で父を失い、母とも離れ、駿河の大国・今川家のもとで人質として暮らしていた。大河ドラマ「どうする家康」の放送台本をもとに小説化。(NHK出版)



意外と読んだことがない！?

あの作家さんのデビュー作単行本！

西條 奈加 『金春屋ゴメス』 (新潮社)

小川 洋子 『完璧な病室』

伊坂 幸太郎 『オーデュボンの祈り』

東野 圭吾 『放課後』

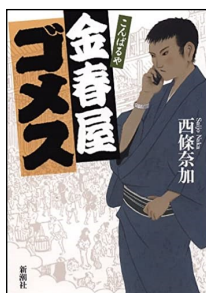
堂場 瞬一 『8年』 (分)

中山 七里 『さよならドビュッシー』

宮部 みゆき 『我らが隣人の犯罪』

池井戸 潤 『果つる底なき』

辻村 深月 『冷たい校舎の時は止まる』 (分)



こちらは限定愛蔵版！

閉架書庫にある本はお気軽にスタッフまで！



冬期間のお願い



- 館内感染対策等、換気のために窓を開ける時間帯があります。
- また、年末年始休館後は館内が冷え込み、暖まるまでに時間がかかります。ひざ掛けなどの持ち込みもOKですので、暖かい格好でお越しください。
- 雪の日は階段や入り口が大変滑りやすくなります。ご来館の際は、足元に十分ご注意ください。
- 積雪量によっては、駐車場などの除雪作業が開館時間までにすべて完了できない場合もございます。
- その際はスタッフが駐車可能な場所をご案内いたします。ご不便をお掛けいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

今月号の新刊について

今月号に掲載している新刊は、年末年始期間を挟むため貸出可能になるまでお時間をいただく場合がございます。カウンターにて事前のご予約が可能ですので、ぜひご利用ください。

マーク
のご案内



=分館所蔵



=0歳からOK



=しかけ絵本



=受賞作



=予約がおすすめ



=エッセイ等